

しみじみつぶやく

原発問題は、祖先追想道から

二〇一四年八月十五日

JOMON^{縄文}あか데미 山田 学^{まなぶ} ©

この文章は二〇一二年十月公開「原発どうする会本部」の目的を止揚します。

序

原発問題は、深刻です。原発問題は、実は、原爆問題です。諸民族調和への道、これを根本から考へ抜かないと、解決しません。社会の裏事情などを、ご自分にて、調べてみてください。ここでは、祖先追想道のすすめ、から述べます。

源流から

健康平和な現実認識において、日本民族ないし諸民族の源流を探っていく。地球表面の各域の生態系、そのうちにおける諸民族性の生成。その必然について、理解しあひ、また、経営や政治における、今までの諸民族闘争。その必然についても、反省しあふ。さうしてはじめて、諸民族調和への経営、ないし政治解消を、開拓していく。するとはじめて、核兵器廃絶への道、これも可能であり、核廃棄物の根本処理への研究開発、これも可能です。地球表面の各域の生態系の、健康平和な調整、これも可能です。

健康平和な現実認識において、日本民族ないし諸民族の源流を探る、いはば祖先追想道。すべては、ここからはじまります。日本列島の「鎮守の森」といふ、ひろばなどにおいて、地球表面の、生理的進化を想ふ。日本民族の、茶道・華道・書道・芸道・武道やものづくり道などを、情念融和し、思考統合していく。さういふ、祖先追想道のすすめです。現在および将来の人びとの認識に、健康平和な現実認識を、供給していく事業です。諸家系や諸組織や諸国家にある、病的戦争な架空認識の情報戦、それらを止揚（内容は保存し、形式は否定）してまいります。

人間社会は、健康平和な現実認識の世界学を追究しあふ、学問発達体として、賢く思考統合していくべし。

社会変化の必然といふものがあり、可能な社会運動といふものがあります。〈人間社会人民おたがひの健康平和生活を生産しあふ〉。かういふ、生体協力

の理念を実現していくことが、どう可能でせうか。この可能性のもと、社会のさまざまな供給体制を、どう再編してまゐりませうか。生産調和体へ、どう再編してまゐりませうか。

人は生れ、やがて老い、あるいは病ひともなり、いづれ死にます。個人の生活ないし人生を、とくにその体内のあり方を、現実の人間社会発達と、どうつながるか。現実の世界進化と、どうつながるか。健康平和な、姿勢動作や、呼吸や、食事や、人間関係や、精神や、生活環境。これらを、子々孫々にわたるまで、追究しあひつづける。さういふ、道德共同体を、はじめよう。これが、情感安定への道です。保健といふ能力のある認識、これを追究しあひつづける。

つながり

都市は、地球表面の各時代や各域なりに、真と善と美と健を追求しあふ、心地でせう。その機能は、ある程度、インターネット上のサイトにおいても、可能となつていきます。諸民族は、各時代や各域の生態系にもあはせ、多彩な生活方法や生産方法や世界観や倫理、これを展開してきました。それらの現実史をなるべく知り、地球表面の民衆通信を形成していきませう。まづ理屈ぬきに、おたがひ似てゐるか似てゐないか、情感融和を追求しあひませう。祖先追想道のすすめです。その上において、先に述べた、情感安定や、生体協力や、思考統合を、追求しあひませう。

言語や貨幣の形式にとらはれ、その内容（意味や価値）といふ、社会関係を正しく理解しない。つまり、人間社会人民が、おたがひの認識と労働を、正しく理解しあつてゐない。さういふ現状を反省し、意味とは何か、これをひろく深く理解した言語へ、価値とは何か、これをひろく深く理解した貨幣へ、変革してまゐりませう。

家庭とは、どういふ協会か。恋愛・出産・保育・教育といふ、特殊な労働と、生活の休養面のための、協会です。

同好会とは、どういふ協会か。職場の分業労働を修正する、保健的な労働や、分業認識を修正する、保健的な認識のための、休養協会です。

職場とは、どういふ協会か。人間社会人民おたがひの健康平和生活を目的とする、生産調和体へ向け、自由に創造していく。さういふ、生活の労働面のための協会です。

家庭といふ協会、同好会といふ協会、職場といふ協会、それぞれの未来について、情念し、思索しあつていくひろば。これを創造してまゐりませう。

この数千年間、国家といふものは、残念ながら、部族ないし民族闘争と、資産格差拡大のための、組織として、発展しました。社会の敵対性を保護し統制

する、伝統でした。社会の敵対性そのものを、しだいしだいに解決していく、もうひとつの公共。これを民間から創造していきたいです。情念融和のためです。既成の国家や政治を、しだいしだいに、先に述べた、民衆通信（情念融和）や、道徳共同体（情感安定）や、生産調和体（生体協力）や、学問発達体（思考統合）へ、止揚（内容は保存し、形式は否定）していく。さういふ、政治解消世論も、結集してまゐりませう。人間社会を、諸民族調和と、資産格差縮小へ、指導し、運営し、経営していく組織。それを、しだいしだいに、構築してまゐりませう。闘争から調和へ、人間社会の数千年ぶりの大転換です。世直しつながらにて、つながってまゐりませう。

ものあはれ

日本列島は実は、土器はつくりやすい、生態系であつた。が、米はつくりにくい、生態系でした。日本民族は、弥生時代に、中国大陸南部を源流とする、稲作を改善し、日本列島型の水田稲作を、開発しました。その際、山と里と海における、清い水の循環と分配、これに留意し、縄文時代以来の、山の幸や海の幸も、維持しました。舟による、海岸や川（山の水源の近くまで）や湖沼の、水運も、重視しました。日本民族流の自然認識、これを発達させました。環日本海の春夏秋冬に、ものあはれの人情を、発達させました。

恵まれた生態系に棲みつづけてきた日本民族は、これから、地球表面の各域の生態系を、健康平和にどう調整していくか、その知恵を出しやすい民族です。古代ギリシャ哲学と、十七世紀南欧西欧科学からの、物理学生理学や、政治学経営学や、数学など。これらを日本列島において、どう継承し、どう修正し、どう発達させるか。さうして日本民族の、ものあはれや雪月花や花鳥風月といふ表象と、調和させていく。これが、わたくしどもJOMON^{縄文}あかでみいの中心課題でもあります。学問のすすめから、学問の転換へ、です。

どうするかい？

今の日本社会と日本国は、次を、第一の目的とすべきでせう。すなはち、核廃棄物の根本処理を軸に、あらゆる産業と、技術開発と、学問と、芸術と、報道と、行政と、統治を、再編していく。核廃棄物の根本処理についての深刻さ、これを正視する。軽視したり、逃避したりしてゐる、余裕はない。といふことです。

原発論の問題を解決していくには、次の総合的な問ひかけ十題こそが大切です。

第一問【健康平和】どういふ生活が、健康平和な生活ですか。

第二問【食糧】日本人の食糧を、どう獲得しつづけますか。

第三問【生活環境】健康平和な生活環境を、どう獲得しつづけますか。

第四問【省エネ・節電】省エネや節電の工夫を、どのやうにしていけますか。

第五問【自然電力】自然の変化を活す、発電や蓄電や送電や配電を、どうしていけますか。

第六問【既成電力】水力発電や、火力発電や、原子力発電を、どう改善し、改革し、変革し、または終らせていけますか。

第七問【核廃棄物】核廃棄物の根本的な処理。このもつとも難しい問題に、どう立ち向ひますか。

第八問【雪月花】雪月花といふ美意識の日本民族。その本領をどう発揮しますか。

第九問【核融合・超伝導など】常温核融合や、高温超伝導や、各種ナノテクなどは、どのやうに発達し、活用していけますか。

第十問【その他】その他、言ひたいことはありませんか。

原発は推進か？反対か？

といふ思想の闘争を演出することは、愚かです。

反対派にも健康平和な現実認識の部分があります。

推進派にも健康平和な現実認識の部分があります。

それぞれの区別と連関について、冷静に、思索しあひ情念しあつていくべし。三・一一後のかういふ（寄りあひ）こそが、大切です。それじたいが将来は、

新しい教養産業となるかもしれません。

日本社会の、成熟方針でもありません。

子どもの口げんくわでなく、大人の茶室を、演出したいです。

人権思想を、日本社会流に成熟させたいです。

三・一一後の世直し運動です。

原発をどうするかい？

日本社会の目前の課題のため、ここに、JOMONあかでみいのうちの特殊な会として、「原発どうするか本部」を設立いたします。

「本部」とは自称しますが、ほんの民衆の一部分です。

社会には、さまざまな独自の組織や交流があります。

それぞれの独自の目的の実現において、「原発をどうするかい？」といふ、検討と行動はからみませんか？

もしからむなら、ぜひ、それぞれの組織や交流のうちの特殊な会として、「〇

○内原発どうする会」をお創りください。

原発をどうするかい？

あくまで○○様の独自の目的の実現においてからむ範囲の、検討と行動を、「原発どうする会本部」が、支援いたしたいと、夢みてゐます。○○様において必要以上の検討と行動を、わたくしどもが、強要することはありません。

以下、「原発どうする会本部」の目的です。

日本列島住民の健康平和生活のため、必要十分な食糧とエネルギーと生活環境をどう獲得しあつていくか？ その最高の品質と最低の費用を追求しあへるやう、支援いたしたい。

住民おたがひの健康平和生活を追求しあひ、それにおいて、最高の品質と最低の電力を追求しあへるやう、支援いたしたい。

自然環境の変化になめらかに対応し、活用する、発電や蓄電や送電や配電の、技術や技能や社会制度へ、なるべく早く切り換へあつていけるやう、支援いたしたい。

電池と火力発電について、たとへば「マグネシウム燃料構想」（矢部 孝・山路達也『マグネシウム文明論石油に代わる新エネルギー資源』PHP新書二〇一〇年参照）を冷静に評価しあひ、なるべく早く実現しあつていけるやう、支援いたしたい。

ダム利用発電や、（石炭・石油・天然ガスの）酸化反応利用発電や、核分裂利用発電について、その問題点を改善・改革・変革する努力を、継続しあつていけるやう、支援いたしたい。

核廃棄物（福島第一原発一〜四号機を含む）の根本的な処理技術の研究開発において、日本社会が、世界の先頭を走るやう、教養と教育を拡張しあふ。ものあはれ、雪月花、花鳥風月の日本民族の、本領を発揮しあふ。いはば（雪月花への核ごみみそぎ）列島運動を支援いたしたい。

このためにも、「トリウム熔融塩核エネルギー協働システム」（古川和男『原発安全革命』文春新書二〇一一年参照）を冷静に評価しあひ、なるべく早く実現しあつていけるやう、支援いたしたい。

常温核融合や、高温超伝導や、各種ナノテクや、JOMONあかでみいの「TQ技術」など、これらの現実を冷静に評価しあひつつ、物理学や生理学を補足し修正するやう、教養と教育を拡張しあふ。この支援をいたしたい。

原発をどうするかい？

この課題の解決を通し、日本列島住民の情念の融和を仲介し、生体の協力を企画いたしたい。

現実の現象に着目する。とともに、本質的な思索をする。内容本位の公平な

検討をし、的を射た行動ができるやう、支援いたしたい。

日本社会の目前の課題のため、主に民間からの統一活動を呼びかけたいです。順次、有能な司会者と有能な助言者と各種現場体験者を充実させてまわりたいです。戦後の制度疲労と思考停止を打破してまわりたいです。対象にある対立や、対象の認識においてある対立について、闘争すべきは闘争し、調和すべきは調和する、現実対応の思索をしてまわります。

日本社会の目前の課題を、主に民間から解決していく、統一活動。かういふ壮大な目的を分析しつつ、すでにある、さまざまな独自の組織や交流のそれぞれの中に、統一活動のため、特殊な会といふ手段を創っていた。日本列島各地に無理なく創っていたいただいた手段を、無駄なく総合してまわりたいです。

二〇〇五年十一月開始のJOMONあかみサイトにおいて、公開しつつある、健康平和な現実認識のそれなりの厚みを、無理なく無駄なく、応用してまわりたいです。

日本社会の目前の課題を解決へ、これをご縁に、息をしてゐる人びとの生活の運動を、健康平和に編成していく。情念し思索し通信し会議し行動する、原発論列島運動。さまざまな企業と、さまざまな思想の、矛盾を解決していく、民衆なりの教養運動。これをいつかは、指導し運営させていただきたいです。

〔文献〕この文章の認識を構築するにあたり、以下の文献などを参照いたしました。

本田克也・加藤幸信・浅野昌充・神庭純子『看護のための「いのちの歴史」の物語』(現代社白鳳選書 2007)

松本克己『世界言語のなかの日本語日本語系統論の新たな地平』(三省堂 2007)

安田喜憲『一万年前気候大変動による食糧革命、そして文明誕生へ』(イースト・プレス 2014)

石 弘之・安田喜憲・湯浅赳男『新版環境と文明の世界史人類史20万年の興亡を環境史から学ぶ』(洋泉社歴史新書 v 2013)

川喜田二郎『素朴と文明』(講談社 1987)

斎藤守弘『神々の発見超歴史学ノート』(講談社文庫 1997)

辻井 喬・鶴岡真弓『ケルトの風に吹かれて西欧の基層とやまとの出会い』(北沢図書出版 1994)

寺沢 薫『日本の歴史02王権誕生』(講談社学術文庫 2008)

吉田 孝『歴史のなかの天皇』(岩波新書 2006)

広井良典『人口減少社会という希望コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日選書 2013)

三浦 展『第四の消費つながりを生み出す社会へ』(朝日新書 2012)